

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年8月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2873002014		
法人名	社会福祉法人 サンシャイン		
事業所名	グループホームサンプラザやすらぎ		
所在地	兵庫県尼崎市蓬川町331-4 (電話) 06(4869) 5770		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年6月20日	評価確定日	平成20年8月15日

【情報提供票より】(平成20年6月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7人	常勤	5人, 非常勤 2人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4 階建ての	3 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(6月3日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	1 名	要介護2	1 名			
要介護3	5 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	87.8 歳	最低	81 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中病院・昭和病院・いづか医院
---------	-----------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>尼崎市の都市部に近い自然環境に恵まれた鉄筋4階建ての3階部分にグループホームがある。ホーム周辺は季節感がわかる花が植えられ、また玄関先に蚊取り線香が置かれ、ホームとは感じさせない馴染みのある生活空間が窺える。利用者は、ホーム周辺に住んでいた人が多いことから、土地感があり、近隣とのつながりが強い。また、家族が頻繁にホームに来ることができるという利点がある。利用者の自立支援を促し、生活機能動作を高める環境づくりを心がけている。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>介護計画は、利用者や家族の意向を中心に作成していたものであったが、今回は介護者や専門的技術の視点からもバランスよく作成していた。また、見直し期間の短縮をする努力が窺われた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>今回の自己評価は、管理者が中心となって、職員や家族に聞き取りをしながら作成した。また、評価から分かった課題は、職員がその内容をケース会議で話し合い事業改善に努めていた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、職員や管理者はもとより、地域包括支援センター、利用者、家族、ボランティアの代表が集まって、現状や課題を相談し合っている。家族や利用者、職員の他、さまざまな職種の方を招いて、積極的な意見を出してもらえるようにしている。その結果、保護者会の発足や苦情対応の強化が実現した。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>ホーム便りが発行され、遠方の親族や近隣住民に直接自宅へ出向いて手渡している。その他、個別に、郵便物を使って、報告・連絡をこまめにしている。保護者会を通じて、苦情を検討し、事業所へ報告する仕組みが作られている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>利用者は買い物や散歩の際に、地域住民と挨拶を交わすことが多い。また、自治会、町内会、老人会に加入しながら、行事、清掃活動など地域の活動にも積極的に参加している。</p>

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は、事業所としての役割や経験を踏まえ、利用者の生活を支える拠点となる環境づくりを目指している。また、職員同士で話し合いを重ね、利用者が地域で暮らす住民の一人として活動することをモットーとしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念は、玄関のドアや利用者の共有スペース、事務所内に掲示している。利用者、職員の目線の位置や文字の大きさなどに工夫を凝らし、誰でも理解できるようにしている。また、理念についてケース会議でたびたび話し合いを行い、職員への周知・徹底が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣から来られている利用者が多いため、買い物や散歩の際に、地域住民と挨拶を交わすことが多い。また、自治会、町内会、老人会に加入しながら、行事、清掃活動など地域の活動にも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、管理者が中心となって、職員や家族に聞き取りをしながら作成をした。また、課題の見えたところは、職員がその内容をケース会議で話し合い、事業改善に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>19年度は6回、20年度は5月に運営推進会議を実施している。職員や管理者はもとより、地域包括支援センター、利用者、家族、ボランティアの代表が集まって、現状や課題を相談し合っている。その意見や相談内容が各部署のケース会議で話し合わせ、サービスの質の改善に努めている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>改正された制度や法令、運営上の問題、新規事業の相談内容を市担当課に持ち寄り、助言や指導を受けている。定期的に担当者のもとへ出向いたり、メール、FAXなどを使って情報交換を行なっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りとして、「やすらぎ通信」「すみれねっと」が発行されている。家族以外にも遠方の親族や近隣住民にも、配布している。その他、個別の報告は、郵便物を使って連絡をこまめにしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所内で相談窓口を設置し、なんでも話し合える環境の構築を目指している。また、個人の意見を取り入れたり、利用者・保護者の苦情解決に向けて保護者会を結成し、その代表者が事業所に話し合った内容を報告するようにしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在、職員の異動はほとんどない。仮に異動があった場合にも、管理者の方で事前に利用者やその家族に伝える。また、家族一人ひとりに紹介したり、引継ぎ期間を長くとって対応するようにしている。また、職員同士で、誰もが利用者に対応することができるようにすることで、ダメージを防ぐように心がけている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験や能力によって外部の研修を受けることができる。その場合、かかった費用のほとんどは、事業所が負担している。内部研修については、各セクションごとに研修を実施している。内容を報告書にまとめ、いつでも閲覧できる場所を設けている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホーム連絡会に加入し、勉強会や意見交換会に参加している。また、事業所間で職員交流を実施し、スタッフのスキルの向上に努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前に家族や利用者と呼んで、見学会を実施している。また、入居している利用者と一緒にお茶を飲んだり、話をしてもらったり、1日の生活を見てもらっている。また、必要に応じて、法人が行なっているデイサービスセンターに遊びに行き、交流を深めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者は同じ立場に立って、一緒に生活を支え合う者として活動をしている。例えば、献立、調理、買い物、洗濯物たたみなど一緒に作業することが多い。職員は、利用者の残存能力を引き出しながら、いきいきとした生活が送れるように努力している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者や家族、自治会・老人会・民生委員など近隣の方の意見を十分汲み取って、入居しやすいように努めている。定期的なアセスメントを実施しながら、生活状況や趣味、嗜好、希望を聞いている。職員一丸となって利用者の意向に沿った支援を検討している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回、ケアカンファレンスを実施し、利用者の介護計画の実施内容を検討している。また、実施後もサービスの内容、時間、回数が適切だったか、利用者や家族の意見が反映されていたかなどの記録を集めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、3ヵ月に1回実施している。病気やストレスで表情や態度に変化があったときや利用者・家族から要望を受けたときには、その都度見直している。</p>		<p>介護計画の中で定期的に変更や見直しを行っているが、現状は見直しの有無のみの記載になっているため、モニタリングの実施内容の項目を介護計画の中にさらに詳しく盛り込むか別途の用紙に記載するなど、具体的に記述することが期待される。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>病院やかかりつけ医との連絡網が整備され、何かあると医師の指示のもと看護師が健康面で相談・支援している。</p> <p>また、医療連携体制を活かして、利用者の負担とならないような支援を行っている。入院された場合でも、早期退院に向けた支援を行い、医師・看護師とも連携を取りながら終末期ケアにも取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者のニーズに応えられる医療体制の構築に努めている。日頃からかかりつけ医とは、利用者の生活状況や体調について、報告、連絡、相談をしている。何かあった場合、遠方からでも駆けつけてくれる。また、法人の感染安全委員会と緊密な連絡を取り合っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>現在は本格的に看取りケアを行っている人はいない。しかし、将来に備え、利用者・家族・主治医と早期に話し合いを行い、重度化や終末期の対応がケアカンファレンスで話し合われる仕組みを作っている。可能な限りホームでの生活が維持できるように支援している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>トイレは各部屋ごとに設置されている。言葉かけの対応では、利用者や家族が不快に思わないように、ケアカンファレンスで検討し、職員全員で共通認識を持つようにしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>読書、カラオケ、園芸、創作活動がボランティアの協力のもと企画される。そして、利用者は、その日の状態に合わせて参加している。また、利用者の生活のリズムを把握し、一人ひとりのペースに合わせた外出や歩行の支援を行なっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は市場に食材を買いに行ったり、屋上で育てた野菜を使って食事の準備をしている。職員は交替で献立と一緒に考え、利用者の希望や作業ペースなど考慮しながら、見守りを行なっている。盛り付け、味見などみんな楽しくできるように、流し台が広く作られている。食事の際はテレビを消して、利用者同士の会話ができる工夫をしている。食後は片付けができる人は、自分の食器を洗っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自由な時間に入浴ができるため、職員は利用者の習慣や希望に配慮しながら、入浴するタイミングを考えて支援している。また、介助が必要な利用者の中には、羞恥心や恐怖心を抱かせないように十分配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の心身の状況、希望、意見などのアセスメント情報を踏まえ、役割や楽しみ事を把握している。洗濯物たたみ、掃除、食事の後片付けなど、利用者の希望に応じて支援している。また、傾聴ボランティアに来てもらい、利用者の考えを述べやすいようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせて、ほぼ毎日、行きたいところへ行けるように支援している。また、バスを利用して、利用者全員で花見や公園、イベント会場へ行っている。職員は、利用者の個別の事情を考慮しながら、なるべく外出できるよう支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーター前の入り口付近にセンサーが設置されており、近くを通ると職員に分かる仕組みになっている。帰宅願望が強い利用者には、職員の見守りと職員同士の声かけ、見守りを周知徹底させ、利用者の意向を汲んだ形で対応をしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災対策委員会で検討し、年2回防災訓練を実施している。地域の住民や家族は直接参加はしていないが、地震や水害の際の避難・対処方法の情報をホーム側から得ている。また、日々の備えとして、玄関入り口にAEDを設置している。職員のほぼ全員が使うことができる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入浴後に水分補給ができるように、麦茶や飲料水がリフレッシュスペース付近に置いてある。利用者の好みに応じて、コーヒーや牛乳を出している。職員だけでなく、栄養士が利用者の食事の量や栄養バランスを考えるために、利用者から情報を収集している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節感がわかる花がいつも飾られている。壁には、利用者が持ち寄った習字や写真などを掲示している。室内は風通しが良く、換気が行き届いている。トイレや浴室、廊下なども温度調整を行っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が快適に過ごせる広さで、家具やトイレが設置されている。また、利用者の馴染みある道具が自由に持ちこまれている。 ホームには和室の部屋があり、浴衣などの着付けができるよう鏡台を置いてある。		

 は、重点項目。